

ダイサギとオオタカの攻防

大浦沼周辺の広大な田んぼの稲穂は一段と黄金色に輝き始め、まもなく収穫期を迎える季節となった。

8月29日、農道の脇に佇む1羽のダイサギ。周囲の風景に白いアクセントを添える姿は、おしとやかな女性像にも見えてきた。こののどかな光景の中、突然に緊張感が走った。

上空から猛禽類のオオタカが襲いかかってきたのだ。不意を突かれたダイサギ。飛び去る隙もなく、咄嗟に身をかわしながら逃げまわった。何回も攻撃を繰り返されると、逃げ場所を求めて直ぐ足元にあった水路に入って行った。



オオタカに攻撃され、水路に逃げ込むダイサギ。

やっと頭が出るくらいの深さだが、なにしろ幅が狭い。羽根を広げることままなりません。

路上でじっと攻撃のチャンスを窺うオオタカ。オオタカも水路に入ろうとしたが、あまりにも狭くあきらめたのか地上に戻ってきた。

ダイサギと私の車までの距離は15メートル程で、オオタカまでは20数メートル。

さあ~どうする、ダイサギさん。。。。。



水路を覗きこむオオタカ。



中に入るようだ。

必死のダイサギは狭い水路の中を歩き、どんどん私の車に近づいてきた。僅か4～5メートル。さすがにここまでくると、襲われることは無いようだ。警戒心の強いオオタカは暫く眺めていたが、あきらめたのか恨めしそうに飛び去っていった。

ダイサギは安心したかのように水路からジャンプし、難なく飛び去って行った。



水路の幅はかなり狭い。



必死になって逃げてきた。

自分より数倍も大きいダイサギを襲ったオオタカ。

そこには、まさに自然界で生き延びるための弱肉強食の世界があった。私の車に助けを求めるように近づくことで、命拾いしたダイサギであった。

もし私の車がなかったらどうなっていたらだろうか。偶然にもダイサギのピンチを救う手助けをした、夏の終わりのある日のドラマ。何となく「ちょっといい話」でした。



車の直ぐそばまで近づく。遠くにはオオタカが。



やがて諦めて飛び去った。



体の模様から若鳥と思われる。